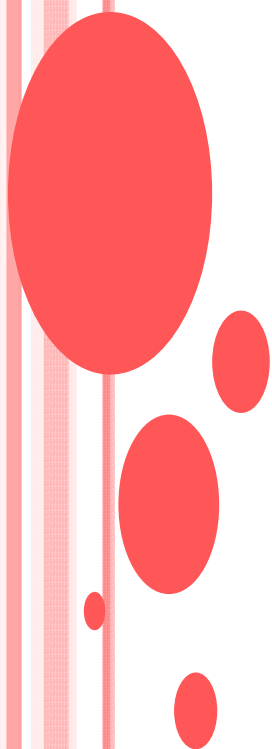


第6章

環境を守り育てる 人材の育成



環境活動支援センターえこらぼの活動

(環境共生課)

1 概要

県民の行う環境活動に対する支援や環境学習及び地球温暖化防止活動の推進拠点となる「環境活動支援センターえこらぼ」は、平成18年4月に開設され、環境情報の発信や環境学習講師の派遣、環境イベントの開催などの事業を実施しています。

2 平成29年度の主な活動実績

(1) 情報発信

メールマガジンやホームページ等で、イベント情報の紹介や、環境活動団体及び環境学習講師の情報を提供しました。

(2) 環境学習の支援

環境学習講師の紹介・派遣により地域や学校での環境学習の支援を行いました。

また、環境学習の機会を提供するため、環境絵日記コンテストを開催しました。

更に、環境省が行うこどもエコクラブ事業の県事務局として、こども達が地域の中で楽しみながら自主的に行う環境学習や実践活動を支援しました。

ア 環境学習講師派遣

学校や地域のイベント等へ、えこらぼに登録された環境学習講師を紹介・派遣しました。

平成29年度紹介・派遣実績：46件

平成29年度受講者数：1,902人

イ 環境絵日記コンテスト

小学生を対象に、環境について考え、行動したことを絵日記に表現することで環境への意識や理解を育むことを目的として、「環境絵日記コンテスト」を実施しました。

平成29年度応募実績：3,277作品



ウ こどもエコクラブ事業

平成30年2月3日に開催しました「こうち環境博2018」において、こどもエコクラブ壁新聞展と交流発表会を行いました。

県内8クラブが参加して、それぞれの活動をまとめた壁紙新聞等を使った活動発表や他の参加者と一緒にエコライフゲームを体験する等、子どもから大人まで幅広い世代との交流を行いました。

こどもエコクラブ登録数 13クラブ

(平成30年3月31日現在)

(3) 環境学習プログラムリストの作成

学校・地域における環境学習機会の提供を拡大するため、学校向け・社会人向けの環境学習プログラムリストを作成しました。

・小学生向けプログラムリスト

配布先：高知県内の小学校 203校

高知県・各市町村教育委員会

・社会人向けプログラムリスト

配布先：公民館、高知県・各市町村教育委員会生涯学習課など

(4) 生物多様性こうち戦略推進リーダー養成講座

生物多様性の保全、普及、推進のための人材の育成を行いました。

養成講座1 知識編

日時：平成29年9月9日(土)

受講者：20名

養成講座2 応用編

日時：平成29年9月16日(土)

受講者：18名

(5) 環境イベントの開催

環境活動団体や環境学習講師の活動を紹介するとともに、学校などへの環境学習講師の紹介、普及を目的とした体験型環境学習イベントを黒潮町で開催しました。

来場者：591人



環境活動見本市の様子(平成30年3月18日)

(6) こうちエコ川柳大賞

高知県の自然環境、環境問題、エコに関する体験などを五・七・五の川柳で表現するエコ川柳を募集し、応募作品について選考会を行い、大賞 1 作品、優秀賞 3 作品、入賞 10 作品を選考しました。

・第 1 回エコ川柳

大賞「ゴミ当番 今では楽しい ビン整理」

応募作品数 : 78 作品

・第 2 回エコ川柳

大賞「エコエコと 残さず食べて メタボ指導」

応募作品 : 120 作品

環境活動支援センターえこらぼ

平成30年度管理運営団体

特定非営利活動法人 環境の杜こうち

所在地 : 高知市旭町 3 丁目115番地

こうち男女共同参画センター 3F

TEL : 088-802-7765

FAX : 088-802-2205

E-Mail : center@ecolabo-kochi.jp

コクヨ-四万十 結の森

プロジェクトへの参加

(高等学校課・四万十高校生)

1 概要

四万十高校は、平成 11 年から「自然環境コース」を普通科に設置し、高知県の恵まれた自然環境を生かした環境教育に関する取組を積極的に行っています。

これまでに「森と川と海のつながりフィールドワーク」、「屋久島研修」、「黒尊研修」など幅広く環境学習を行ってきました。

2 施策の展開

(実施した取組)

コクヨ-四万十 結の森プロジェクト

(1) 目的

森と川と海のつながりや、自然と地域のつながりを知り、四万十川周辺の環境を考え行動する人材となる。

(2) 主催

コクヨ株式会社・四万十町森林組合
高知県立四万十高等学校

(3) 開催日

平成 30 年 9 月 8 日 (土)
平成 30 年 9 月 9 日 (日)

(4) 開催場所

四万十町大正、四万十町窪川

(5) 実施内容

- ア 大正集成材工場・四万十町総合庁舎見学
参加者 36 名
- イ 調査報告会
 - ・ 結の森の活動
 - ・ 平成 29 年度調査結果
 参加者 33 名



記念撮影 (大正道の駅)



集成材工場見学 (四万十町大正)



四万十町総合庁舎見学 (四万十町窪川)

地球環境や風力発電の出前授業

(公営企業局電気工水課)

平成 29 年度 出前授業実績

- ・実施回数：9回
- ・受講生徒数：延べ 255 名
(その他、教員・保護者多数受講)

1 概要

公営企業局は大豊風力発電所(平成 11 年運転開始、2 基)、甫喜ヶ峰風力発電所(平成 15 年運転開始、2 基)の県内 2 か所で、地球環境にやさしい風力発電所を運営しています。

また、風力発電を通して子どもたちに地球環境への関心を持ってもらうことを目的として、職員が学校に出向き「風力エネルギー出前授業」を実施しています。

ここ数年は、県立香北青少年の家で行われている小学校 5 年生を対象とした宿泊研修の一コマとしても、この出前授業を活用していただいています。

2 体験を通した学習

出前授業では、まず風力発電や環境問題についての基礎的な講義を行います。講義は、受講される子どもたちの学年を考慮した内容で実施しています。

講義終了後は、ペットボトルで風車の羽根を作成してもらいます。この羽根を風の力で回して電気を起こし、発電量を計る実験を行っています。

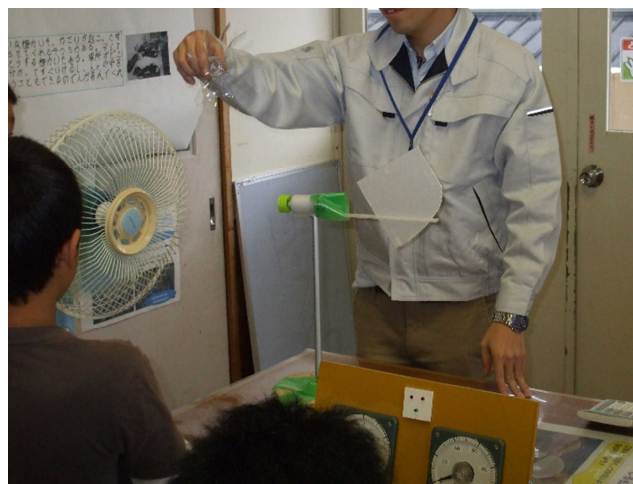
また、授業で作成していただいた風車の羽根をご家庭の扇風機などで楽しめるように公営企業局オリジナルの手持ち棒を配布しています。

その他、公営企業局では「風力エネルギーブックレット」を作成しており、風力発電や再生可能エネルギーについてわかりやすく学習していただけるよう、出前授業の際に冊子の配布を行っています。

なお、出前授業の詳細な内容や申し込み方法については、公営企業局電気工水課のホームページに掲載しています。



出前授業の様子



ペットボトル風車の発電量測定風景



ペットボトル風車の羽根と手持ち棒

自然体験活動企画担当者セミナー

(生涯学習課)

1 概要

森のようちえんをはじめとした、幼少期の子どもを含む青少年向けの自然体験活動プログラムの企画・実施ができる自然体験活動指導者を養成する講座を開催しました。(高知自然学校連絡会による企画・実施)。

2 開催日

前期：平成 29 年 11 月 18 日 (土)・19 日 (日)

後期：平成 30 年 2 月 11 日 (日)・12 日 (月・祝)

3 対象

自然体験提供団体の方々、教育関係者・施設職員
集落活動センター関係者、地域おこし協力隊
高知自然学校連絡会加盟団体、その他希望者

4 会場

(前期) 高知県四万十町

中津川集落活動センターこだま

(後期) 高知県立高知青少年の家



5 実施内容

県内各地で自然体験の場を経営、運営、提供されている方々を講師として招聘し、今年度から自然体験活動を企画し経営する実務担当者側の立場にたった「マネジメント講座」として開催しました。

(1) 自然体験の存在認識 (1.5 時間)

今なぜ、人と自然をつなぐ教育 (体験・学び) なのか (Ⅰ)

○なぜ自然体験活動をするのか。事業をするにあたって主催者として自然体験活動の意味を整理しておく必要がある。自然体験活動の考え方について紹介する。

(2) 自然体験事業を回す (9.0 時間)

ア 自然体験活動のマネジメント基礎Ⅰ (助成金の活用・収支管理)

イ 自然体験活動のパブリッシング (情宣活動策から事業コンセプト発信)

○広報業務に必要なスキルを整理し、チラシ作成や HP・フェイスブックなどでの IT 技術を身につける。

ウ 自然体験活動の事業評価 (何のために、誰が何に対してどのように評価するのか)

エ 自然体験活動がもたらす地域社会との連

携・協調 (組織運営リスクを集落活動センターの運営から学ぶ)

(3) 自然体験の存在認識 (1.5 時間)

今なぜ、人と自然をつなぐ教育 (体験・学び) なのか (Ⅱ)・・(1) をさらに深める。

(4) 自然体験事業を回す (3 時間)

(2) の上級編。ファシリテーションって何？
入門編 (組織をまわす、参加者とのふれあいのコツ)

(5) 自然体験活動を創る (6 時間)

ア 自然体験プログラム企画・運営の実習とワークショップ (連携事業の企画運営)

イ 創って体験～実習と掴み～

・野外活動 (自然観察・ネイチャーゲーム等)

・クラフトづくり (木のペンダント)

6 実績

研修参加者数：23 人

子ども地域学習推進事業 (森の子ども会議)

(生涯学習課)

1 概要

小学生から高校生までの異年齢の子どもたちが、森林・林業をはじめとする中山間の地域課題に対し課題解決のプロジェクト立案に取り組むことにより、課題探求、合意形成、アイデア出し、地域の巻き込み方などの基礎を学び、将来の森林保全や地域活性化の担い手の育成につなげます。

2 開催日と実施内容

○1 回目：平成 29 年 11 月 12 日 (日)

・会議の手法・土佐山アカデミーの取組方法
・山に人が巡る仕組みをつくるアイデア・課題を
探るフィールドワークほか

○2 回目：平成 29 年 12 月 17 日 (日)

・地域の方々からのヒアリング・中川地域の事業
「キャンドルナイト」のろうそく設置・アイデ
ア再考・K P T 分析手法によるアクションプラ
ン作りほか



3 場所

土佐山夢産地パーク交流館かわせみ、ほか

4 実績

参加者 6 名 (小学生 1 名・高校生 5 名)

参加者満足度：94%

森林研修センター情報交流館 森林ボランティアリーダー養成講座 (林業環境政策課)

1 現状と課題

森林研修センター情報交流館は、平成 11 年 4 月に、森林及び木の文化に関する情報の収集及び提供並びに学習機会の提供と、森林に関するボランティア活動等の支援を目的とした施設として開館しました。平成 18 年の指定管理者制度の導入に伴い、情報交流館ネットワークを指定管理者に指定し、管理運営を行っています。

情報交流館では、高知県の自然豊かな環境を次世代に繋げ、その尊さ、素晴らしさ、大切さを伝えていく人材を育成するため、森づくり、自然体験、木工クラフトの 3 コースからなる森林ボランティアリーダー養成講座を毎年開催しています。この 12 年間で延べ 457 人の修了生があり、その内の多くの人々が、森林ボランティアとして情報交流館や県内各地域で活躍をしています。

平成 29 年度は 27 人が受講し、年間を通して座学や体験活動、技能の習得、指導体験などを行いました。



【森林ボランティアリーダーの活動の様子】

2 実施した取組

(1) 森づくりコース

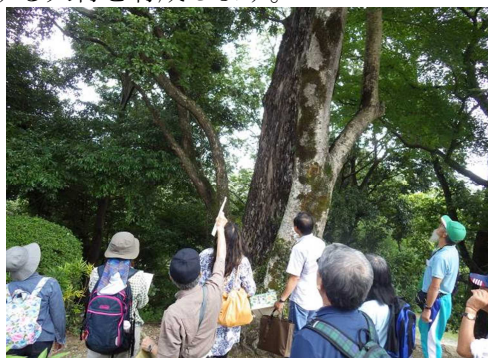
間伐や森林整備などのボランティアとして活躍する人材を育成しています。チェーンソーや刈払機の技術、関係法令や安全衛生等を学びます。



【間伐実習の様子】

(2) 自然体験コース

高知県の野生動物や森林植生などについて、体験を通して学びます。自然体験プログラム作成の手法やコミュニケーションスキル、リスクマネジメントなども学び、指導者として森林環境学習を実践する人材を育成します。



【樹木医と歩く、高知城の樹木ウォッチの様子】

(3) 木工クラフトコース

手工具や電動工具の使い方を基礎から学び、子どもたちにもものづくりの楽しさ、木の優しさや温もり、木を使うことの意義を伝える人材を育成します。



【木工職人の指導による椅子作りの様子】

その他、環境モデル都市梼原町を訪ねるバスツアー等を共通講座として実施し、環境について考える機会の提供、人と人との交流を通して、ボランティアとしての資質向上を図っています。

3 今後の取組

情報交流館を拠点として、日常的にボランティア活動を支援する体制を整えていくために、ホームページ等による情報の共有と、ボランティア間のネットワーク化を推進し、養成講座で誕生したボランティアが活動できる環境を構築します。

また、情報交流館が行う事業等でボランティアが参加できる機会を提供し、森林環境教育や自然体験活動等を通して、森林の機能や管理の重要性を広報、啓発することで、県民参加の森づくりへと繋がるよう取り組んでいきます。

県立牧野植物園

(環境共生課)

1 概要

牧野植物園は、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として、昭和33年4月に高知市五台山に開園し、平成11年11月には園地面積を拡張し「牧野富太郎記念館」を新設、さらに、平成22年4月には南園に新温室がオープンしました。

植物園地は18.2ha（うち6haを供用）、主要施設として、牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場などがあり、レストラン、ショップ、カフェも運営しています。



牧野植物園の南園にある温室

2 運営主体

公益財団法人高知県牧野記念財団を指定管理者に指定（平成28.4.1～平成33.3.31）

3 平成29年度の主な植物園活動実績など

牧野植物園では、植物に親しみながら、植物の大切さや自然環境の保護保全について改めて考えていただく機会を提供するため、各種教室やイベント、展示活動などを行っています。

(1) 植物教室

植物についての知識の普及を目的とした教室など、社会のニーズを意識した実践的かつ幅広い内容で教室を実施しています。

・「草花を描く」「ふれあい植物観察会」「園内薬草観察ツアー」「押花教室」「アロマテラピー教室」など

(2) 子ども自然体験教室

いろいろな体験を通して子どもたちに五感で自然を感じてもらうことを目指して実施しています。

・「竹でオニヤンマをつくろう!」「自分でお茶をつくって飲もう」「どんぐりのヒミツ」など

(3) 学習プログラムなど

遠足や校外学習で来園される未就学児から高校生に対し、学習プログラムやクイズ形式の解説を実施するとともに、出前授業や職場体験など幅広く植物について学ぶ機会を提供しています。

・学習プログラム「フィールドクイズ」「空飛ぶタネ」「冬芽をみてみよう」など

(4) 企画展関連イベントなど

植物に興味・関心を抱き、植物園に足を運んでもらうきっかけづくりとして、植物や牧野富太郎博士に関連した催しや、生きた植物の展示や教室、イベントなどを開催しています。

・「植物スタンプラリー」「ヒトツバタゴのライトアップ」「サボテンと多肉植物展」「オオオニバスにのろう!」「夜の植物園」「五台山観月会」など



植物スタンプラリー

(5) その他

来園者への展示解説・植物解説、園外への講師派遣などを行っています。

※平成29年度入園者数:135,089人

4 研究型植物園として

牧野富太郎博士の研究業績を受け継ぎ、県内の自然環境を保全するための研究、調査を実施し、野生植物の分布や生育地の状況の把握に努めています。

また、県内で栽培が可能と思われる薬用植物資源の品目の選定を行い、約90%を外国産に依存している薬用植物の国内生産を視野に入れ、県内農家で実証試験栽培を行うなど、研究結果を県の産業振興に結び付けることを模索しています。

さらに、ミャンマーやソロモンで収集した豊富な植物の有用性を見出すためのエキスライブラリー化を進め、県内外の大学や企業との共同研究により、新薬や機能性商品などへ利用可能な植物の探索を行っています。

※牧野植物園ホームページ

<http://www.makino.or.jp/>

県立甫喜ヶ峰森林公園 (林業環境政策課)

1 森林環境プログラムの実施

甫喜ヶ峰森林公園は、昭和 53 年に開催されました第 29 回全国植樹祭の会場として整備された後、県民の憩いの場、児童・生徒の学習の場として多くの県民の皆様に親しまれています。

公園の設置目的である、「県民への森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高める」ために、森林環境プログラムを実施しています。



【県立甫喜ヶ峰森林公園の様子】



【中学生による木工体験】



【しいたけの収穫体験】

(1) 森の贈りものの届けます事業

学校関係の利用促進と森林環境学習の充実を図るため、森林のしくみについての学習、間伐体験、ネイチャーゲームなどの体験プログラムを公園内や学校等への出張により実施しています。

(2) 里山林体験事業

里山林をうまく生活に取り込んでいた時代に行われてきたことや里山林の成り立ちや仕組みについて学習する機会として、しいたけのコマ打ち体験や収穫と試食体験などのプログラムを年間通じて実施しています。

(3) 森あそび体験事業

未就学児とその家族を主な対象として、森の中で葉っぱや木々、小川等で遊んだり、絵本の読み聞かせをしたり、焼き芋作りなどの“森あそび”を年間通じて実施しています。



【森あそび体験】